

五月病

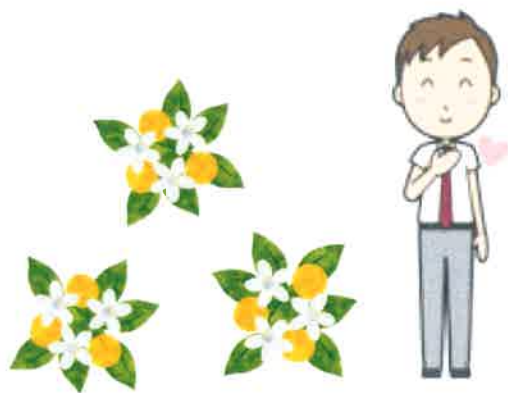
五月病という現代の病は、1968年頃から日本社会に広まった。新入社員や大学一年生が新しい環境に馴染めず、だるい、つらい、といった心身の不調を訴える。今年はその様相が例年とは少し違おうとラジオで紹介されていました。

コロナの影響がこんなところにも、と思う話です。この春感染が落ち着いたのを見計らって、リアルで仕事や授業を始めたところ「対面疲れ」を起こしている若者が相当数いるという。中には2年間ずっと講義を2倍速で聞いていたため「生で先生の話の聞くと、ゆっくりすぎてイライラする。」との学生の声もあり、思わず笑ってしまいます。と同時にうーんと考え込んでしまう。

動画配信の普及で倍速視聴なる映画の消費法もZ世代を中心に広がっている。最近の若者は忙しい。かけた時間に対する満足度を表すコスパならぬ「タイパ」が大切らしい。1本でも多く見ようと早送りする映画好きはVHS時代からいきましたが、今は目的が違うと「映画を早送りで観る人たち」の著者の飯田豊史氏は考察する。

一種の「生存戦略」だといいます。あふれるコンテンツ。知らないことで周囲から取り残される恐怖。個性的でなければとの脅迫めいた観念に駆られ、過食症ごとく情報の「カロリー摂取」に走る。疲れるのも無理はない。効率一辺倒で無駄を悪しとする社会に誰がしたのか。橘月（タチバナツキ）の空気を吸い胸に手を当ててみる。

鎌野



年を重ねて思うこと

歳をとるということは大変だ。こんなこと書くと、大先輩方には、「何をまだ若造が！」と言われそうだが、私も7月で58歳となり、先日もメインバンクさんから、年金の受け取り予約をしてくれと頼まれて将来、年金の受給が始まった際の受け取り金融機関として登録した。

自分は、あまり長生きをする自信はないので、60歳から少しでも貰えるならもらおうつもりでいます。その分、会社での私の給料が下がれば会社も助かりますね。そういう中小企業の経営者も多いと思いますが、なんとも合点がいかぬ、日本の年金制度である。

体の方もあちこち悪い。うちの家系は、高血圧・糖尿病・不整脈・癌・脳梗塞・脳溢血と、なんでもござれの家系である。かかり付けのお医者様からは、貴方は血統がいいからと、若い頃から高血圧の薬を飲ませていただいて、血圧は比較的安定しているが、途中から糖尿病が加わり、薬も毎日沢山飲んでいる。

糖尿病ってかったるいのですよね。すぐに疲れるし。血糖値高いと頭がボーっとしてくるので、すぐに分かります。血糖値が高いと血管がポロポロになるそうだし。まあ、自業自得な生活習慣病ではありますが、やはり死にたくはない。このコロナの期間、宴会がほぼなかったもので、10kg程痩せましたが、まだ115kgあります。せめて100kgは切るように、ウォーキングでも始めようかなと思います。

英樹



配り

第276便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 静岡県中山518番地

水滴に写る光は儂くて

明日もくるよとホタルの光

ねがみともみ



山に登り川に遊びし幼き日

思い出多し我が故郷は

林なをみ



墓参り寺詣もちでする老の日や

家族に趣味かと思らるるままに

勝亦りつ子



太陽光発電パネル

東京都が新築の建物に対して太陽光発電パネル（以下太陽パネル）の設置義務を検討していますね。持続可能なエネルギー供給というのはもはや世界の必須事項です。2011年東日本大震災の東電原発事故以降、脱原発、再生可能エネルギー推進で、とりわけ太陽パネルは助成金対象になったりと何かと導入を優遇されている感もあり一般化していますね。他の発電方式に比べて単位発電当たりの設置コストが安いと国を挙げての推進となったのかもしれない。

ところが、太陽パネルのエネルギー変換効率は現段階でせいぜい20%ほどなんだそうです。これだけで日本中の電力を賄う事はちょっと難しいところです。日中に家庭の電力を一時的に賄う自給自足的な使い方であれば有効なのでしょう。しかしこのパネルが老朽化した時、構造上分別回収ということが難しく現段階でリサイクルは難しい。一気に太陽パネルを普及させることは同時に大量の廃棄物を生むということにも繋がります。そういったところまで考えられた施策であるならばいいのですが、果たしてそのあたりは・・・。

さらに言うと太陽パネルは晴天日中の発電だけなので、その電気を貯めておく蓄電池とセットでの運用が望ましいのですが、まだまだ高性能な蓄電池というのは高価であり普及していません。この分野での技術革新が待たれますね。僕は太陽パネルはもう少し先送りにした方がいいと思っています。他にも水力や風力地熱など再生可能エネルギーは色々あります。水道管の水流で発電する機構もあるようで、この分野、調べてみると結構面白いですよ。

柳田 敏和



五月

『風薫る』季節となりました。今までは、寒い季節から風が爽やかな気持ちのいい季節になったなあ。お茶摘みの時期よね！という感じでしたが、短歌、俳句をかじるようになりまして、『風薫る』とはいい表現だなあとと思うようになりました。新芽の緑色には花のような嗅覚を感じる匂い、はありませんが、あのヤワヤワとした新芽と爽やかな風にまさに『風薫る』。調べた一句 “かきわけの 白ののれんや 風薫る” 正岡子規 風、感じます。葉っぱの色は緑ですが、緑色もいろいろあり、和名で調べると面白い。若草色：萌黄色：緑青色：深緑：翡翠色このあたりはよく使うのではないのでしょうか。私のツボは“柳葉色”に“浅緑”頭に浮かびますが、実際白の画用紙にのせるとなると微妙な色。このゆる～い感じがいいです。絵の具で緑を作るとなると、黄色と青を混ぜます 緑は二次色で、緑を作るためには原色の青と黄色を同量混ぜ合わせる。原色とは、単一で存在し、混ぜ合わせても作ることができない色を意味しています。赤、青、黄色という3つの原色があり、そのうちの青と黄色のみを混ぜて緑を作ります。そのままグリーンの絵の具もありますが、この2色混ぜ、調整するというのが私は好きです。『風薫る』から広がりました。

投句、まだまだ佳作から抜け出せない私ですが、視点が広がるなあ。と実感しています。

その佳作作品、

兼題：落花 “照らされて落花の銀河は流れゆく”

兼題：冬の海 “あの頃は五センチの間冬の間” 凡人だな。頑張ります。

ねがみ



夏日

今から40年ぐらい前、子供のころの夏休みは、今に比べあまり暑くなかった。たまに25度を超えると夏日だと天気予報で騒いでいたと記憶している。学校のプールは、入った後寒くなるので好きではなかったし、外で遊んでいても熱中症に気を使うこともなかったと思う。夏休み明けには真っ黒に日焼けした子供を表彰することもあった。今では、うっかり焼きすぎたら後が大変。

最近の気温は5月だというのに30度を超える時も珍しくなくなってきたと思う。25度くらいでは涼しい気もする。世界中で異常気象のニュースも聞く事が増えた。年々、梅雨時の降水量が増え続けているとも聞く。大雨による被害が出ないことを祈るしかない。

地球の温暖化はどこまで行ってしまうのだろう。



祥子